

佐賀県立博物館報 №.26

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL 09522(4)3947

染 錦 花鳥図三方割文蓋付壺

高さ47cm、径31cm

江戸前期の有田皿山で造られた中国様の華麗な染錦の磁器は、17世紀のなかば、国際性豊かな輸出伊万里として脚光をあびた。との背景には、オランダ連合東印度会社の商船による交易ルートがあった。その結果、有田磁器は、北欧、西欧の諸国では、東洋趣味の流行の中で迎えられた。なかでも当時のドイツのザクセン選定侯であったアウグスト・ストロンク一世は、東洋の磁器なかでも日本製の染付磁器、色絵磁器を収集し、かつてのツヴィンガー宮殿に収納し、日本宮の建設を企てた程である。現在のドレスデン美術館の数多い古伊万里の名器名品の中で、この蓋物は実に重

厚な形姿と豪華さを温存している優品のひとつである。

17世紀末から18世紀にかけてのドレスデン王宮は、後期バロック建築であり、前期ロココ建築であっただけに、この蓋付壺は、その建築内容の装飾品としての機能を果たしている。政治や産業復興

に意欲的であったアウグスト王は、ヨーロッパ諸公の中で最も理解の深い東洋磁器の収集家であったが、この蓋付壺は、その強大王の好みと、当時の王宮の装飾品としての需要を反映した調度品としての高い格調をくまなく表現しているといえよう。いかにも力強い運筆で絵模様や配色効果も素晴らしい。



目次

- ・染錦 花鳥図三方割文蓋付壺…………… 1
- ・化石と進化展…………… 2・3
- ・古伊万里名品展…………… 4・5
- ・樫島山道跡調査概報…………… 6・7
- ・日誌・行事…………… 8

生物進化の神秘をさぐる

化石と進化展

特別出陣——月の石、甲冑魚(日本初公開)

- 会期 昭和50年6月1日～22日
- 会場 佐賀県立博物館
- 主催 国立科学博物館、佐賀県教育委員会
佐賀県立博物館、朝日新聞社
- 協力 佐賀県理科教育振興会
- 観覧料

大人、200円(150円)
 大高生、150円(100円)
 中小生、100円(50円)
 ()は団体料金、20名以上

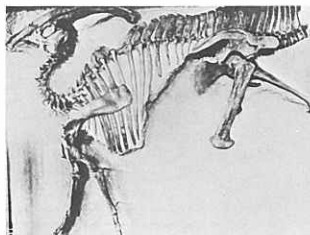
開催主旨

地球が生成したあとと生命が発生し、地球の環境が変化
 するのに対応して、生物が変化してきた。生物はまた
 地球の環境条件を変えてきた。生物の進化は環境と生
 物の相互作用の結果とみることが出来る。この生物の
 進化を示す重要な証拠の一つとして化石がある。この
 特別展ではいろいろな種類の化石を展示し、これをと
 おして生物進化の跡をたどってみたい。

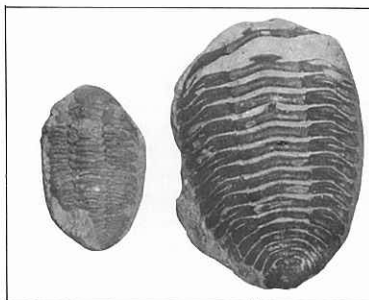
主な展示内容(約500点)

- ①地層の中に跡をたどる
 - 地層モデリング(壁面展示)
うめこみ化石34点
 - 年代表
 - 化石が岩石か
電顕写真 赤鉄鉱
日本最古の岩石
 - 三葉虫
三葉虫とは 三葉虫5～6点
- ②電顕下にも化石の驚異
植物化石 タマゴ化石
- ③頭足類の進化をさぐる
 - オウムガイとアンモナイト
化石 4点 図解パネル
 - アンモナイトのいろいろ
約50点、台上展示、パネル組込み
 - 縫合線の進化
縫合線とは……パネル 化石、6点
 - アンモナイトの絶滅
図解パネル
 - アンモナイトの栄えた日本
図解パネル 化石5～6点
- ④植物の進歩をみる
 - 始めに地上に栄えた維管植物
図解パネル 化石2点

- 古生代に栄えた植物
リンボク トクサ類(ロボク) 木性シダ
コルダイトス レバチア 原生林パネル
- 中生代に栄えた植物
ソテツ 裸子植物
現生の裸子植物との比較
中生代の環境パネル
葉の進化
- 身近な進化
トクサ(2点) イチョウ(16点) 解説パネル
- 第三紀の森林の移り変わり
- ⑤脊椎動物の進化
首長竜 マルシノテチリウム
デニクチス プテラドン リストロサウルス
ゴンドワナランド大陸とは
パラサウロロフス
アロサウルス……系統図
プテラゴテルス 翼長竜の大小
日本より出土した翼長竜
タイムトロドン エグノサウルス
古代のオオサメの歯
- 佐賀県内炭鉱から出土した化石歯、亀
- コノドント(ナメクジウオの仲間)
- ⑥人類の進化
現生、古生人類比較パネル
猿人
ジンジャーントロプス
原人の頭骨
原人分布図
シナントロプス
出土場所写真 頭骨
- 図録頒布、600円の子定。



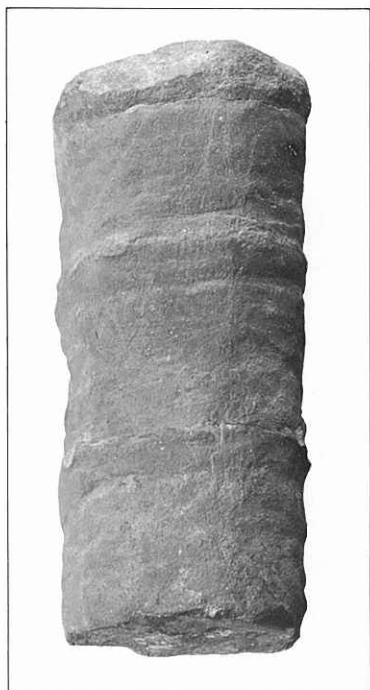
- パラサウロロフス(白亜紀後期 約1億年)
- 頭にそり返った平たい隆起があり、トサカのように見
えるところから名付けられた。
 - 水陸両棲のカモノハシ恐竜の一種。指には水かきがあ
り、口にはたくさんの歯がある。



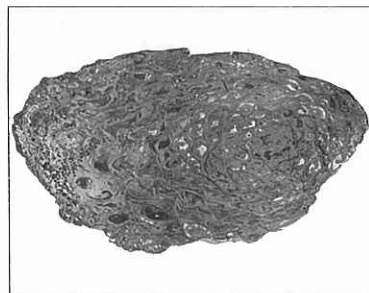
三葉虫
デボン紀、ポリビヤ



サンゴ
デボン紀、ドイツ



昔のトクサ
ジュラ紀（約1億8千万年前）新潟県



ムカシゼンマイ
二畳紀（約2億3千万年前）（オーストラリア）



アンモナイト
白亜紀後期（セノマニアン上部）南樺太、川上炭坑

250年ぶりの里帰り——

ドイツ民主共和国ドレスデン国立美術館所蔵

古伊万里名品展

会期 7月2日～8月6日

会場 佐賀県立博物館

昨今の日本美術界の話題の焦点は、ドイツ民主共和国、国立ドレスデン美術館所蔵の古伊万里と関連のあるマイセン磁器など合せて158点が、主要都市の5会場で開催されることである。なかでも佐賀県は、日本磁器のふるさとであるだけに、250年ぶりにドイツ民主共和国より里帰りの古伊万里（柿右衛門系をふくむ）名品展の佐賀県開催は、日頃、古美術に関心の薄い人びとでも、年令を超越して県民感情の中に、江戸中期の素晴らしい窯芸の精華として話題を集めている。特に佐賀県立博物館を会場とした古伊万里展は、文字通りの里帰り展であるだけに、来る7月2日より8月6日までの公開展示は、各方面より大きな期待がよせられている。佐賀会場の開催を前に、輸出古伊万里の歴史的背景や、列品内容を紹介することにしよう。

——魅惑の輸出古伊万里——

17世紀には、東洋にとっても西洋にとっても大きな出来事が、政治、経済の面に、美術工芸の面に、続出した。中国は明朝が衰退し、代って清朝が新しい文明を産み出し、日本は幕藩体制の下で政治は一応安定し殖産業が起り、鎖国時代に入り、僅かに長崎出島を海外の門戸とした。ヨーロッパにおいては、オランダが幅のある経済圏を形成し、地中海貿易へと転じ、東洋の制海権を維持し、国策会社のオランダ連合東印度会社は、当時の有田皿山の染付磁器や染錦磁器を買付けは、速くヨーロッパ諸国の需要にこたえた。

17世紀も半ば過ぎると有田皿山の磁器生産は軌道に乗れ、中国磁器に代って「古伊万里様式」「柿右衛門様式」の磁器がヨーロッパ市場に迎えられた。黄金時代の古伊万里は、1650年代を起点として19世紀の初頭まで国の内外に取り引きされ、なかでもフランス、イギリス、ドイツ、オランダの諸国の王族・貴族の間で流行を呼び、東洋趣味の上昇と共に輸出古伊万里は、量的に大幅な需要上昇を続けた。

ヨーロッパの18世紀は、後期バロック建築の様式の中で輸出伊万里は王城・王宮をはじめ豪華な邸宅内部の装飾工芸品として不可欠な要素となった。当時のヨーロッパの諸王は、東洋の優秀な磁器を収集することに情熱を燃やし競って、その王宮中にチャイナール・キャビットを配置し、さらにその内容を充実することを競いあった。

なかでも、18世紀はじめのドイツのザクセン選定王のアウグスト一世は、この上もなく東洋の磁器、なかでも日本の古伊万里の磁器を収集することに意欲的であった。アウグスト一世は、ドレスデンのツヴィンガー宮殿（現在のドレスデン美術館）に、二千点内外の東洋磁器を収集して、ドイツの強大王の面目を保った。このことは、1721年に記録された取藏品目録が裏付けているが、このたびの名品展は、この年号より算出して250年ぶりの里帰り展といった考証づけがなされている。アウグスト王は、古伊万里様式、柿右衛門様式の数多くの日本磁器を後世に永く伝えるために日本宮の建築に着手した程度であった。

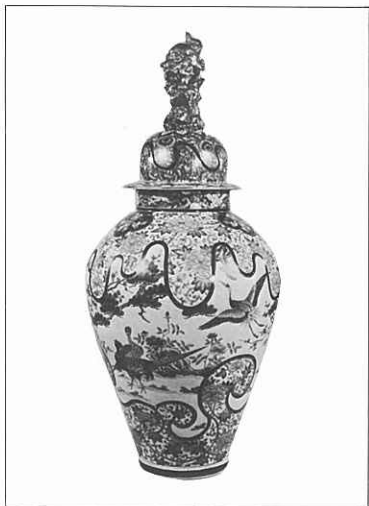
里帰りした古伊万里展の列品は、ほとんどアウグスト王（1670～1733）在世中収集された名品であるだけに、本展は歴史的に深い意義づけがなされているといえよう。

——里帰りの古伊万里名品——

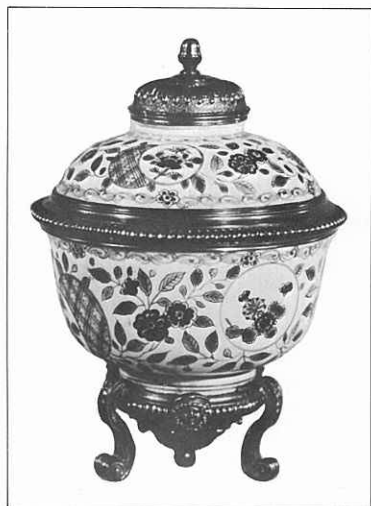
列品は主に形状と様式の分類から構成され、格調と品位の高い古伊万里様式の大壺、大蓋物をはじめ中国との技術、様式の交流の大鉢類、柿右衛門様式の置物、角壺、香炉類の秀れた往時の輸出品である。加えて、輸出伊万里の影響を受けたマイセン磁器が22点ほど展示してあるので、言葉どおりの東西窯芸の交流のあとを学ぶことが出来る。



染錦 花龍図唐花文八角蓋付壺(高さ82cm)



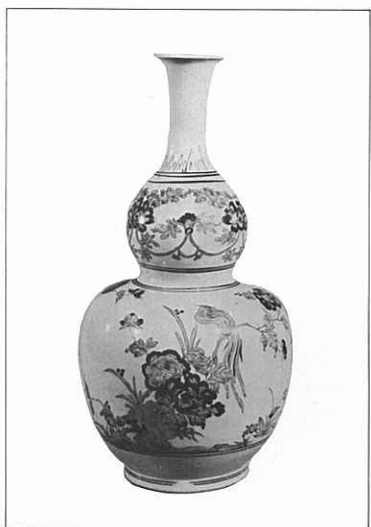
染 錦 岩牡丹松梅鳥唐花文蓋付大壺(高さ97cm)



染 錦 地花草花図小蓋物(高さ16cm)



染 錦 花籠牡丹図洋風皿(径32.5cm)



色 絵 岩牡丹鳳凰図觥瓶(高さ43cm)

柵島山遺跡調査概報



柵島山遺跡遠景 独立丘最頂部に柵島山遺跡がある。

白石平野の西方には三峰からなる柵島山丘陵が南北に連なっている。その北端の勇猛山から北へ水田地帯約3軒を隔てて鬼ノ鼻・徳連岳がそびえている。柵島山は柵島山丘陵と鬼ノ鼻山塊との狭い平地のほぼ中央に独立した南北約500米・標高約80米の丘陵で、北側山麓近くを六角川が緩やかに蛇行し東流している。遺跡は柵島山丘陵の北峰頂部北方町大字芦原字西平に位置している。

この頂部近くからは、昭和41年密柑園造成中に、削り取って出来た崖より扁平な板状自然石を組み合わせた箱式石棺が発見され、この石棺内より内行花文鏡一面・硬玉製勾玉3箇・碧玉製管玉3箇・蒸頭頂刀子一口が検出された。

またこれより前、昭和38年にはこの石棺の近くから箱式石棺4基が出土し、その中の1基から方格規短鏡一面が発見され注目されていた。

これ等の石棺群を遺物の上から眺めるとき、鏡・玉類・刀の3種の宝器を副葬品として持つということは、後の古墳出土遺物との関連を探るうえで重要なことである。また、相隣接しての石棺群の存在は弥生時代の墳墓の類型を知る上で重要であり、ひいては弥生時代の墳墓から古墳時代の墳墓へ推移する過程を考える上からも極めて重要である。

当館では、昭和49年度事業の一環として、「弥生時代の文化の究明と弥生時代から古墳時代へと移行する墳墓の類型を検討し、この遺跡の持つ文化史上の意義を追求する」ことを目的とし、柵島山遺跡の調査を実施した。

調査は地元北方町教育委員会の共催を得て3月10日から19日まで10日間実施し、遺跡の概要を知る予備調査としては多くの収穫を得て終了した。

現場は柵島山独立丘の尾根北端、標高約80米地点である。ここは中腹に鎮座する若松神社の飛び地でカヤと雑木が繁茂する雑草地であるが、戦中・戦後は開墾され甘藷類が栽培されていたという東西約15米・南北約20米の

広がりを持つ地域である。

この地点の北端は中央部以南の平地より約1.2米程高く古墳の封土を思わせ、南端は前述した遺物を副葬した石棺の上部一帯になるわけである。

試掘溝は遺跡の中央部、北端の古墳状肥地上部から南端の石棺上部に向う南北約19米、巾1.5米を設定し調査に入った。

出土した資料は小児壺棺1基・成人用壺棺2基・筒形土器・複合口縁壺ほか弥生式土器片を中心とした多数の資料を得、地形図・実測図・写真に記録した。

発掘調査の成果については、今後整理作業を終え、検討を加えた上「発掘調査報告」で詳しく結果を発表したいが、ここでは今回の調査の概略を紹介しておく。

北側の古墳状の肥高地は、試掘溝の断面で見ると限り七層の盛り土が確認できた。地山整形を終えたのち、中心部より平均約20層程の土を積み上げ、これを繰り返し、最終には最大径約15米、地山より最上層までの高さ約1.6米にしている。この封土中には弥生土器片が混入していた。

古墳状肥高地の中心部には、表土下より地山に達する掘り形があり、取り出した安山岩の板状ブロックを再び埋め戻した状態が認められ、地山の層より浮いて小型竪穴石室に用いられるような板状安山岩が3枚だけ積み重ねて残っていた。

試掘溝北端より南約7.5米地点、即ち円墳状肥高地の南端に当たる位置で、直径約60種のほぼ円形をした掘り形、鉢で蓋をし、身が壺形の弥生時代中期の小児棺が埋置されていた。この壺の頸部はいいねいに打ち欠かれており、底部には穿孔されていた。

試掘溝の中央部、即ち北端から南へ約10米の地点で南北に二分する東西に走る巾約4米、深さ1.5米の溝が存在した。この溝内の有機質を含む黒色土中からは、いくらかの土師器片と、鉄片・須恵器片各1箇が出土したが、溝の最下層からは複合口縁壺が胴部と口縁部とに分かれてはいたが近接して検出された。

また、溝の底部には、中央より南側壁に沿うように安山岩の自然礎石が1米前後の幅で並べられていたが、この溝と石列の性格を確認するまでにはいたっていない。

この溝と石列は、地山を掘り込み、斜位に埋置した弥生中期の壺棺上部を削り破壊しており、古墳時代に入り構築されたであろう。

また試掘溝南端では東西に方向性をもって並ぶ長さ1.5米の石列と、板状自然石数枚を配置した遺構を検出した。この遺構一帯からは、丹塗磨研の土器片や高杯の破片が散在していたが、これ等配石遺構を掘り下げると、石列に接して胴部が筒形をした壺形の土器が出土して注目された。

この土器は鈎状の口縁に小孔が2箇ずつ対応する位置に穿かれ、紐でも通して釣るす構造と思われる。高さは

約20程、口縁部内径10程、胴部には3程から4程間隔で2本ずつ凸帯を四條はりめぐらし、器壁全面をハケで横なでの調整が精緻に加えられ、底部を鉢形土器の手法で整形している。

こうした配石遺構下約1米の地点に、鉢と甕をセットにした成人用葬棺が埋置されていた。遺物は少量の人骨を検出したのみであった。

この配石遺構と散在した土器片、さらには筒形の土器が、葬棺埋置に伴う葬祭儀礼に伴うものであるか否かの問題は、整理作業を進める中で検討していきたい。

(学芸課 志佐禪彦)



試掘溝の南より北の古墳状肥高地を見る（中央が溝状の遺構内の石列）



溝状遺構底部に配された石列（写真中央には上甕を破壊された葬棺が見える）



複合口縁をもつ壺形土器の出土状況



鉢で蓋をした小児甕棺の出土状況



筒形土器

博物館日誌

2月20日	九州歴史資料館長鏡山猛氏、九州大学助教 授平田寛氏来館	3月15日	第17回研究講座(共催県立図書館) 演題 「肥前の刀と鐔」 講師 刀剣研究家 福永酔剣氏 場所 県立図書館講堂
2月22日	監査委員監査	3月22日	博物館協議会開催(応接室)
2月23日	「新遺跡資料展」終了	3月23日	「肥前名刀展」終了(総観覧者数 7,865名) 東京国立博物館小笠原信夫氏「肥前名刀展」 観覧のため来館
2月24日	京都大学教授有光氏来館	3月29日	巖木町田久保浩之氏より県内岩石資料とし て蛇紋岩(3.5t)の寄贈を受ける 「緑光展」開場(大展示室)
3月2日	「肥前名刀展」開場		
3月5日	山口県立博物館長白杵氏来館		
3月10日	北方町椋島山遺跡発掘調査(3月19日まで)		
3月12日	大和中学校生 200名団体観覧		
3月14日	伊万里市大川内町小笠原長春氏より青磁茶 碗の寄贈を受ける		

●行事お知らせ

修学修行の計画に博物館の見学を折込んでください。

	常	設	展
佐賀県の歴史と文化展	4月1日～5月25日 8月13日～9月24日	大 人 50(30) 大・高生 30(20) 小・中生 20(10)	佐賀県の地質時代から現代までの自然 史資料や考古、歴史、美術工芸の資料 を系統的に展示し、本県の歴史と文 化の特質について一般の理解に資する。

企 画 展					
展 覧 会 名	会 期	観 覧 料 ()内は団体料金	展 覧 会 名	会 期	観 覧 料 ()内は団体料金
佐賀美術協会展	5月21日～ 5月25日	常設展の料金を含む	理 科 作 品 展	9月14日～ 9月25日	無 料
化 石 生 物 進 化 展	6月1日～ 6月22日	大 人 200(150) 大・高生 150(100) 中・小生 100(50)	九州沖縄グラフィック デザイン展	9月27日～ 10月1日	無 料
ドレスデン 古伊万里名品展	7月2日～ 8月6日	大 人 300(250) 大・高生 200(150) 中・小生 100(50)	仏 教 美 術 展	10月10日～ 11月9日	大 人 200(150) 大・高生 150(80) 中・小生 100(40)
勤 労 者 美 術 展	8月30日～ 9月7日	(未 定)	第25回佐賀県美術展	11月22日～ 11月30日	大 人 100(80) 大・高生 50(30) 中・小生 30(20)
			佐賀県高等 高等学校美術展	12月4日～ 12月10日	無 料

●新刊書案内

清水平一郎原著、川岡博著

覆刻、佐賀県方言語典一斑の出版について。

かねて佐賀方言を研究されている当館の川岡博先生が、明治36年清水平一郎著の佐賀県方言語典一斑を訂補覆刻出版されました。佐賀県方言の文法的な理解には必須なものです。A5版、208頁、額価 350円(送料は別)申込みは当館へ。

博物館報	第 26 号
発行年月日	昭和 50 年 5 月 1 日
編 集	大 園 弘
発 行	佐賀市内1丁目15-23 佐賀県立博物館
印 刷	合資会社 佐賀印刷社